千ひろの海の真珠取り我が運命こそ青渦わけれるだめ、あるらず 美想にあこがるる身は うましおもひ わける ŋ

逆まく波を闡きゆく 戯る人を夢とはみつつたはるのと

騎楽の春に酔ひしれて ***

永遠に華さく水底ふかく

掌に獲し光栄と喜悦と露のしづくの真珠またま 神秘の巌に嫦娥の

美珠こそわれの生命なれ 七重の潮の妙音にひびく なるへ しょ たくね いのち

一壺の酒の汲む夢淡くいっこ 薫る樹陰に花仄みえ おぼろの春の宵 て

社会高くしらべ祝はむ 心の酔に舞歌を

君瑞祥の歳なれや

契りゆかしき春鳥 幸漂蕩ひてゆく水や 彩雲低く恵の家に へうるほす 柳の萠黄 0

遠くはるけき師の君にとほ 団欒の音をばうつし伝 へむ

> 赤木 樋 \Box 頭次 桜 Ŧi. 君 君 作 作 Ш 歌